

# 高 速 電 車 事 業 会 計

## 1 業務の実績

高速電車事業会計における令和2年度の業務実績は、第1表及び第2表のとおりである。

高速電車事業は、南北線14.3km、東西線20.1km及び東豊線13.6kmの3路線48.0kmで営業しており、当年度の1日平均輸送人員は446,091人で、前年度に比べ173,880人（28.0%）の減少となった。路線別でみると、南北線、東西線及び東豊線のいずれも減少となっている。また、定員に対する乗車密度である乗車効率については、当年度22.0%となり、前年度から8.2ポイント低下した。これらは、新型コロナウイルス感染症の影響により、不要不急の外出やイベントの自粛、市立学校等の臨時休業が実施されたことなどが主な要因と考えられる。

5年間の推移をみると、1日平均輸送人員は平成30年度まで増加していたが、令和元年度以降減少している。路線別では、南北線及び東西線は令和元年度以降減少しており、東豊線は平成30年度に増加に転じたものの、令和元年度以降減少している。

また、乗車効率についても、令和元年度以降低下している。路線別では、南北線及び東西線は令和元年度以降低下し、東豊線は、平成30年度に上昇に転じたものの、令和元年度以降低下している。

第1表 走行キロ・輸送人員の推移

年 度	1日平均走行キロ数		輸 送 人 員				
	(km/日)	すう勢比率	1日平均(人/日)	すう勢比率	1日平均営業1km当たり(人/km・日)	すう勢比率	乗車効率(%)
28	92,238	100.0	619,945	100.0	12,916	100.0	30.2
29	92,242	100.0	627,831	101.3	13,080	101.3	30.6
30	91,916	99.7	631,179	101.8	13,150	101.8	30.8
元	92,095	99.8	619,971	100.0	12,916	100.0	30.2
2	92,051	99.8	446,091	72.0	9,294	72.0	22.0
対前年度増減	(△ 44)	—	(△ 173,880)	—	(△ 3,622)	—	(△ 8.2)
増減率	(△ 0.0%)	—	(△ 28.0%)	—	(△ 28.0%)	—	—

(注) 1日平均走行キロ数、1日平均輸送人員及び1日平均営業1km当たり輸送人員の算出に当たっては、30年度は北海道胆振東部地震の影響により終日運休した日数を控除した364日を1年間の営業日数としている。

第2表 路線別輸送人員・乗車効率の推移

年 度	1日平均輸送人員(人/日)			1日平均営業1km当たり輸送人員(人/km・日)			乗 車 効 率 ( % )		
	南 北 線	東 西 線	東 豊 線	南 北 線	東 西 線	東 豊 線	南 北 線	東 西 線	東 豊 線
28	233,749	234,060	152,136	16,346	11,645	11,186	29.3	28.2	37.4
29	236,548	239,702	151,581	16,542	11,925	11,146	29.5	28.8	37.2
30	236,580	241,846	152,753	16,544	12,032	11,232	29.5	29.1	37.5
元	230,692	239,038	150,241	16,132	11,892	11,047	28.7	28.6	36.9
2	158,799	181,691	105,601	11,105	9,039	7,765	20.5	21.5	26.3
対前年度増減	(△ 71,893)	(△ 57,347)	(△ 44,640)	(△ 5,027)	(△ 2,853)	(△ 3,282)	(△ 8.2)	(△ 7.1)	(△ 10.6)
増減率	(△ 31.2%)	(△ 24.0%)	(△ 29.7%)	(△ 31.2%)	(△ 24.0%)	(△ 29.7%)	—	—	—

(注) 1 第1・2表の( )内の上段は、対前年度増減数値を、下段は対前年度増減率を表している。

2 乗車効率=乗車密度/平均定員(乗車密度=年間延人キロ/年間走行キロ)

3 1日平均輸送人員及び1日平均営業1km当たり輸送人員の算出に当たっては、30年度は北海道胆振東部地震の影響により終日運休した日数を控除した364日を1年間の営業日数としている。